

第5回 Ja Sakai カンファレンス

(2012年3月9日, 10日開催)

『Sakaiを基盤とした新たなムーブメントの展開』

世界では350以上の機関で稼働しているSakaiですが、国内でも全学システムとしてSakaiを採用する大学が現れ、数万人のユーザにサービスを提供するようになってきました。また、ポートフォリオについても多くの大学で実験的に導入する大学が増えてきました。一方、社会動向としてスマートフォン、ネットワークビデオ、電子書籍などの新しい技術が拡大し、大学教育の場での利用が始まろうとしています。今回のカンファレンスのテーマとしては、こうした新たな技術を活用するための基盤としてのSakaiにフォーカスを当て、国内の各機関での取組報告を交え参加者の皆様と考えていきます。

また、今回は初日にWorkshopを組入れ、ポートフォリオおよび実践的な導入について集中的なディスカッションをいたします。

■ 開催概要

- 主 催： 法政大学, Ja Sakai コミュニティ, Sakai Foundation
共 催： 明治大学, 兼松エレクトロニクス, 新日鉄ソリューションズ
後 援： 大学ICT推進協議会



AXIES 大学ICT推進協議会

■ プログラム

第1日目 (3月9日) Workshop 外濠校舎 S406教室 (申し込み多数により会場が変更になりました。)

13:00-17:00 Workshopセッション

- ・ Sakai OSPによるePortfolioシステム構築 (コーディネータ: 宮崎 誠 (法政大学))
- ・ Sakai CLEによる授業支援システム構築 (コーディネータ: 常盤 祐司 (法政大学))

第2日目 (3月10日) 招待講演および発表 外濠校舎 S407教室

10:00 - 10:15 Opening Remarks

八名 和夫 (Ja Sakai 代表, 法政大学)

10:20 - 12:00 招待講演セッション I

“Sakai 最新情報”

Ian Dolphin (Executive Director, Sakai Foundation)

“ビデオ教材管理配信システム Opencast/Matterhorn Project”

Mara Hancock (Director for Educational Technologies, UC Berkeley)

12:00 - 13:30 昼休み

13:30 - 14:20 招待講演セッション II

“NYU Sakai OAE Project”

Lucy Appert, PhD (Director of Educational Technology Liberal Studies Program, New York University)

14:30 - 17:30 一般講演セッション (詳細は裏面に記載いたします。)

18:00 - 20:00 情報交流会 (会費制:4,000円)

■ Guest Speaker 略歴

Ian Dolphin is Executive Director of the Sakai Foundation, taking post on August 1st 2010. From 2008-2010 Ian was International Director of the e-Framework Partnership for Education and Research, a strategic partnership of the Joint Information Systems Committee (JISC) in the UK, the Australian Department of Education, Employment and Workplace Relations, the New Zealand National Library, Ministry of Education, and Ministry of Research, Science and Technology.

From 2003-2008 Ian was Head of e-Strategy at the University of Hull, where he was responsible for advising on Information & Communications Technology strategic direction, and managing the Hull Digital University Project. He is former Deputy Chair of the JISC Integrated Information Environment Committee, and was a member of the Board of Directors of Jasig (2003-2008), the Sakai Project and Foundation (2004-2008), and Curriki.

Ian has a background in teaching, having taught Special Educational Needs English and Information & Communication Technology in Secondary schools and Further Education for fourteen years.

Mara Hancock is the Director for Educational Technologies at UC Berkeley and oversee the Educational Technology Services department. We serve the UC Berkeley campus community by providing classroom technology services and online tools which supports them in their teaching, learning and collaborative endeavors and are committed to the pursuit of innovative educational technology projects in areas that can expand our ability to improve the teaching and learning experience at Berkeley and around the world. ETS has been an active participant in the Fluid Project, Sakai Project, and now are leading the Opencast Project. -- all open source, community developed products out of higher ed.

Lucy Appert is co-chairs NYU's joint faculty and IT task force directing the NYU Sakai OAE project, and she leads the User Reference Group (URG) for the Sakai OAE Community Project. Dr. Appert holds a PhD in 17th & 18th c. British literature and has 18 years of teaching experience. She was the co-recipient of a 2008 NEH Digital Humanities Start-Up Grant to build an electronic portfolio tool for Sakai. Since 2006, she has worked with Liberal Studies' more than 2000 students and 130 faculty members in New York, London, Paris, Florence, and Shanghai to find creative educational technology solutions.

■ Ja Sakai 活動報告 14:30 - 14:40

Ja Sakai 2011年度活動報告および2012年度活動計画

常盤 祐司 (Ja Sakai幹事会)

■ 一般講演セッション

■ Leadership and Future Design, Supporting and Training 14:40 - 15:20

名古屋大学におけるSakaiの利用促進活動報告 太田芳博, 中務孝広, 田上奈緒, 原愛樹, 大平茂輝, 後藤明史,
森健策 (名古屋大学), 梶田将司(京都大学)

名古屋大学では2010年度から、教育学習支援システムとしてSakaiを採用し、全学的に運用を行っている。本発表では、名古屋大学におけるSakai (NUCT; Nagoya University Collaboration and course Tools) の利用推進に向けた普及プロジェクトについて、これまでの活動を述べるとともに、講義での利用、および全学向け学習教材の利用について紹介する。

京都大学における Sakai 実装

梶田将司, 元木環, 平岡齊士 (京都大学情報環境機構IT企画室)

京都大学では、情報セキュリティ研修・研究費適正利用研修などのコンプライアンス系研修や情報環境機構が提供する新人教職員・学生向け情報サービス研修などの部局講習を対象にした「サイバーラーニングスペースタスクフォース」を開始した。本タスクフォースでは、WebCT の後継システム選定に関わり別途立ち上がる予定の「教育の情報化タスクフォース」が対象とする正規授業や OCW, スキルトレーニングなどの自学自習環境までを含めた京都大学における「学び」をトータルに支援できる基盤として Sakai を採用することになった。本報告では、Sakai 2.9 をベースに開発中の「京都大学サイバーラーニングスペース」の実装状況を紹介する。

■ Teaching, Learning, Research and Portfolios 15:20-16:20

理工系学部授業における授業支援システム活用事例

野々部 宏司 (法政大学デザイン工学部)

法政大学では、2006年に授業支援システムが全学的に導入され、2011年4月には、オープンソースウェアであるSakaiをベースとしたシステムへのリプレースが行われた。本発表では、理工系学部授業における授業支援システム活用事例として、2011年度に実施した法政大学デザイン工学部専門科目授業における授業支援システムの利用方法について、教員ユーザの立場から紹介する。

Sakaiをベースとした授業支援システムの現状と今後の展開

常盤 祐司 (法政大学情報メディア教育研究センター)

2011年4月からサービスが開始されたSakaiをベースとした授業支援システムを活用して態様の異なる3科目の授業を実践した。本発表では、それぞれの授業において利用した機能の比較を行い、現状の利用について報告する。さらに現時点の授業支援システムでは公開していない機能の利用可能性および新たな機能の要件などについて展望を述べる。

eポートフォリオ・システム導入における課題の検討

宮崎 誠 (法政大学情報メディア教育研究センター)

SakaiのeポートフォリオツールであるOSPは、eポートフォリオを使った学習活動をガイドできるように設計されており、学習目標とエビデンスに基づく授業実践が可能である。本発表では、大学においてeポートフォリオ・システムを導入する際の課題と、それに対応することができるか、検討する。

■ Software Design and Development 16:30 - 17:10

Sakai CLE 日本語化と国際化

山田 勇樹 (兼松エレクトロニクス株式会社)

2011年4月からサービスを提供している法政大学の Sakai CLE を活用した授業支援システムの開発および構築を実施し多くの知見を得た。本報告ではSakai CLE の日本語環境における問題点と、その対応内容について紹介する。また、本家 Sakai Community における国際化対応への取り組みについても紹介する。

日本版Sakai2.8 開発におけるユーザインターフェイス設計事例

豊田 耕一 (新日鉄ソリューションズ株式会社)

「日本の授業型学習に沿って、Sakai 利用スキルの浅い教員でも気軽にSakai を活用して頂ける」を基本コンセプトに日本版Sakai2.8 を開発中である。本報告では、基本コンセプト実現に向けたユーザインターフェイス設計の事例を紹介する。

■ Expand Solutions 17:10 - 17:30

Sakaiを基盤としたプログラミング教育・学習支援システム

玉木 久夫 (明治大学理工学部)

講演者の研究室では、Sakaiを基盤としたプログラミング教育・学習支援システムを開発し、学科の授業で実際に使用している。また、その使用経験をもとに、教育・学習効果を高めるためのさまざまな手段、方法を研究している。この講演では、学習者モデルにもとづいた適応的な出題、例題プログラムを中心に据えたコンテンツ開発、トレース能力養成のためのツール開発など、最近の研究活動を中心に報告する。